

共生細菌に関する調査

～どうぶつの飼育と腸内フローラ～



アニコムグループでは健康状態を類推する方法として、体内で共生している腸内フローラのバランスの分析が有効ではないかと考えております。

今回は、『どうぶつの飼育と腸内フローラ』について、調査結果をまとめました。

どうぶつを飼育している家庭では乳児期の腸内フローラが豊かになるという文献報告に着目し、どうぶつの飼育と腸内フローラの間関係を調査いたしました。

- * 本調査はアニコムグループの社員と家族の協力の元、便に含まれる細菌の多様性を分析致しました。
- * この調査で得られた結果は効能・効果等を保証するものではありません。
- * 今後の調査・研究により、内容が変更されることがあります。
- * 本調査結果の転用・転載を希望される場合は、アニコム ホールディングス 健康寿命延伸部までご連絡ください。

参考文献：Azad MB (2013) "Infant gut microbiota and the hygiene hypothesis of allergic disease: impact of household pets and siblings on microbiota composition and diversity." *Allergy Asthma Clin Immunol.* 9(1):15.

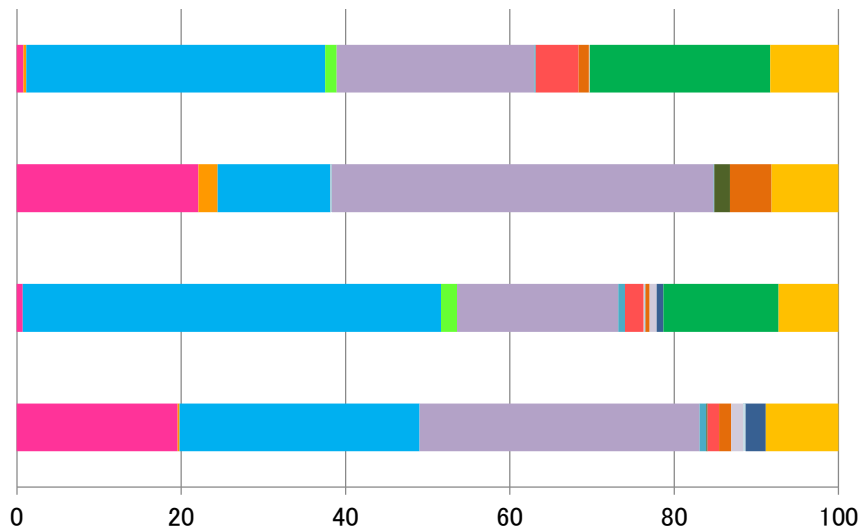


1. 成人での比較

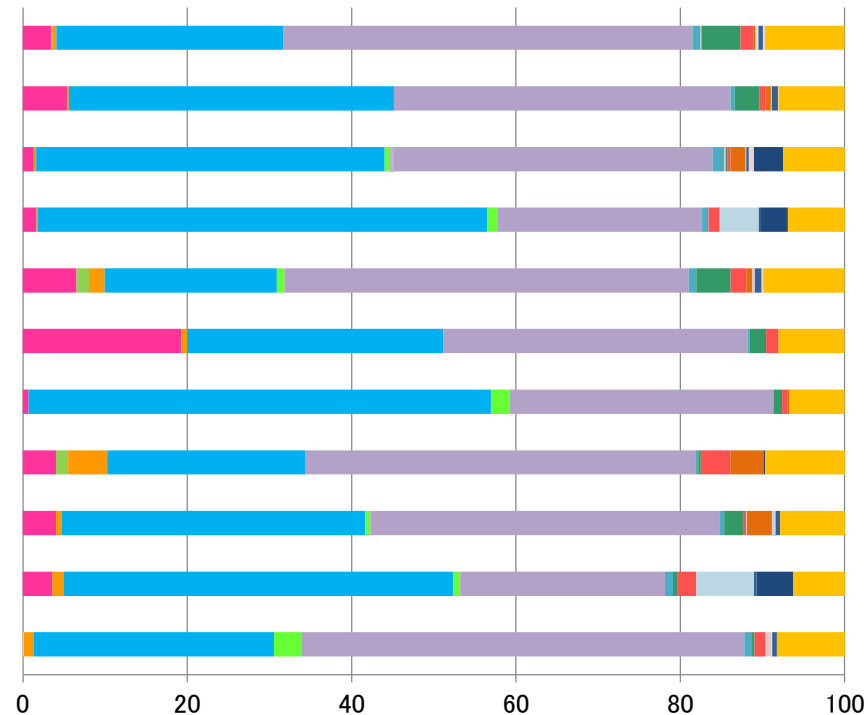
～ どうぶつの飼育と腸内細菌 ～



飼っていない



飼っている



どうぶつを飼育していない4人（23～54歳）と
 どうぶつを飼育している11人（35～42歳）の糞便サンプル中の
 細菌について分析し、腸内フローラの構成を比較。

どうぶつの飼育によって腸内フローラが豊かになる

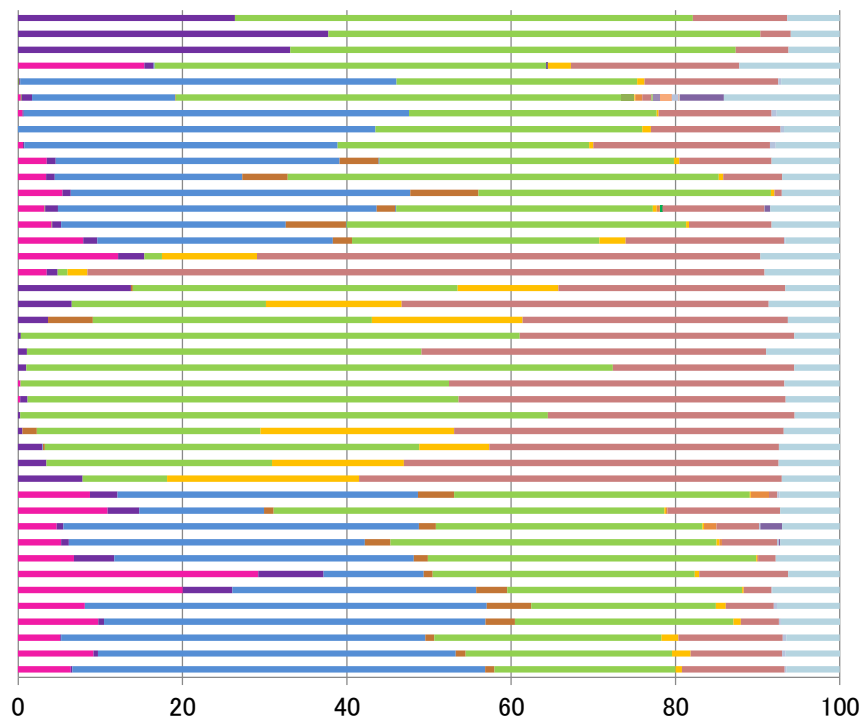
家庭でどうぶつを飼育しているかによって、成人の腸内フローラに違いがあるか調べたところ、
 どうぶつを飼育している方が、腸内フローラの多様性が豊かである傾向にありました。

（右のグラフの方が多様な色がある。）

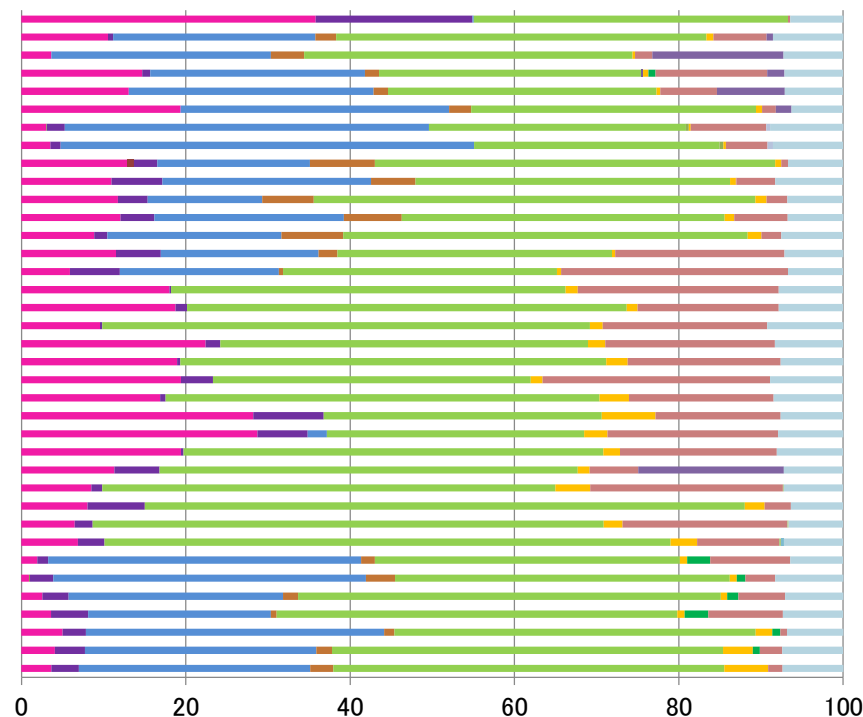
どうぶつと共に生活することで、共生する細菌の多様性の豊かさにつながっているかもしれません



飼っていない



飼っている

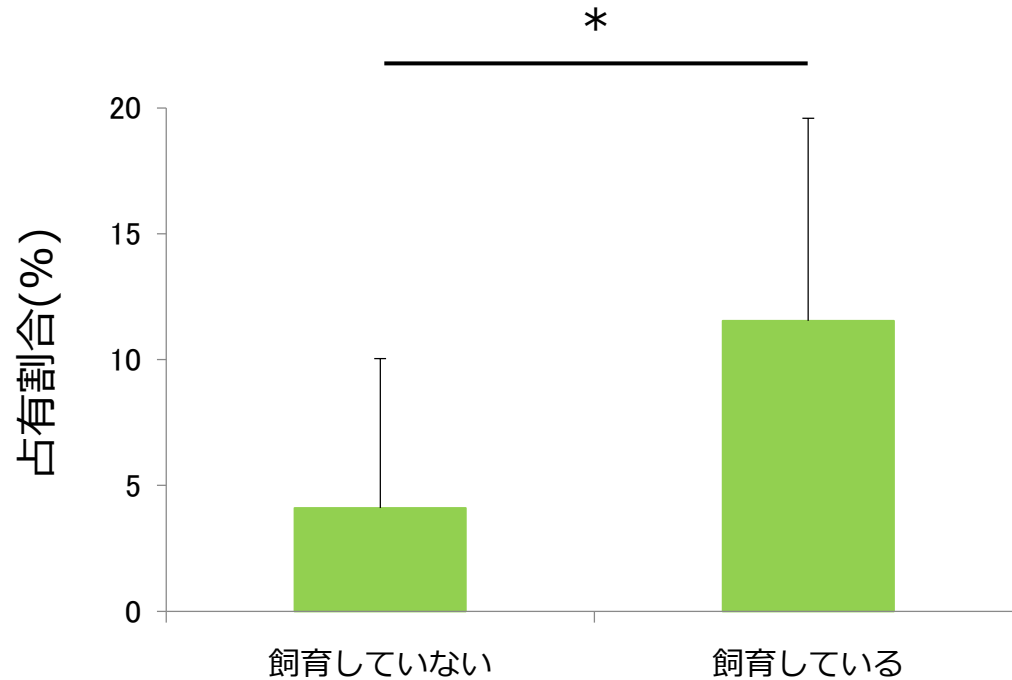


どうぶつを飼育していない家族の乳幼児7人（43検体、平均日齢371日）と飼育している家族の乳幼児7人（38検体、平均日齢450日）の腸内フローラの構成を比較。

どうぶつを飼育している家庭の乳幼児の腸内にはビフィズス菌を含む細菌群がいる

家庭でどうぶつを飼育しているかによって、乳幼児の腸内フローラに違いがあるか調べたところ、成人の場合とは異なり、腸内フローラの多様性に顕著な差は見られませんでした。

一方で、どうぶつを飼育している家庭の乳幼児はいずれもビフィズス菌を含む細菌群（グラフ左のピンクの部分）を保有していることがわかりました。



* p<0.01

「2. 乳幼児の比較」と同じ検体についてビフィドバクテリウム科の占有率を比較。占有率とは対象の細菌が腸内フローラ全体の中で占める割合のことです。

どうぶつを飼育している家庭の乳幼児はビフィズス菌の占有率が高い

前ページの結果から、どうぶつを飼育している家庭としていない家庭の乳幼児の腸内のビフィズス菌の割合を比較したところ、飼育している家庭の乳幼児はビフィズス菌の占有率が飼育していない家庭の乳幼児よりも有意に高いことが分かりました。

どうぶつの飼育が健康に良いとされているビフィズス菌を増やすことにつながっているかもしれません。



今回の調査ではどうぶつを飼育することと腸内フローラの関係についてお示ししました。

どうぶつと暮らすことで、私たちと共生している腸内の細菌も豊かになったり、健康に良いと考えられているビフィズス菌が増える可能性があることがわかってきました。

アニコムでも、引き続き家庭どうぶつの腸内フローラに関する調査を行うとともに、疾患との関係についても検証し、ヒトとどうぶつが幸せに健康で長生きするための施策に役立てていこうと考えております。